

平成25年度

事務事業評価サポーター制度の実施状況について

京都市では、事業の実施結果を点検する「事務事業評価制度」を実施しています。

- 事業効果の点検
- 行財政資源の有効活用
- 市民への説明責任

などを目的として、評価を行っています。



しかし、制度を運用するうえでまだまだ解決すべき様々な課題があります。

事業を評価するのに適切な指標が見出せない…。

事業の成果を客観的な数値で把握できない…。

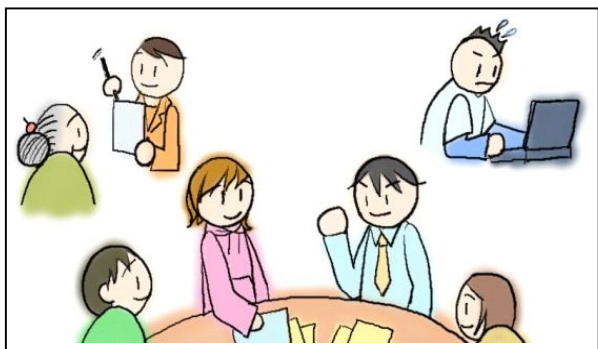
市民に分かりやすい評価になっていない…。



そこで、大学ゼミ等の学生と市役所内から公募した職員とで合同チームを結成し…



事務事業評価制度や、対象となっている分野の事務事業について学んだうえで…



自由な発想、様々な手法で対象分野の事務事業評価をサポートいただき、より良い評価票作りや事務事業の改善に貢献していただきます。

平成25年度の活動対象分野

- ◇ 子育て支援分野
- ◇ 障害者福祉分野

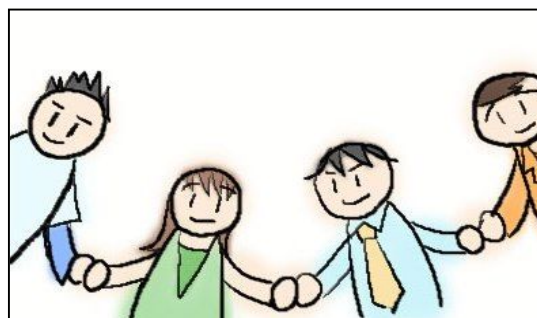
(同志社大学及び龍谷大学と協働)

本市では、平成15年度から本格実施している事務事業評価制度について、庁内外への更なる浸透など主として運用面での改善を図るため、平成17年度から大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、事務事業評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援する事務事業評価サポーター制度（以下「サポーター制度」という。）を実施しています。

この「平成25年度事務事業評価サポーター制度の実施状況について」は、平成25年度のサポーター活動状況について取りまとめたものです。

目次

- 1 事務事業評価サポーター制度とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 平成25年度サポーターチームの活動状況・・・・・・・・・・・・ 4
 - (1) サポーターチームの編成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (2) 活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 評価委員会への活動成果の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 4 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 5 サポーター活動を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

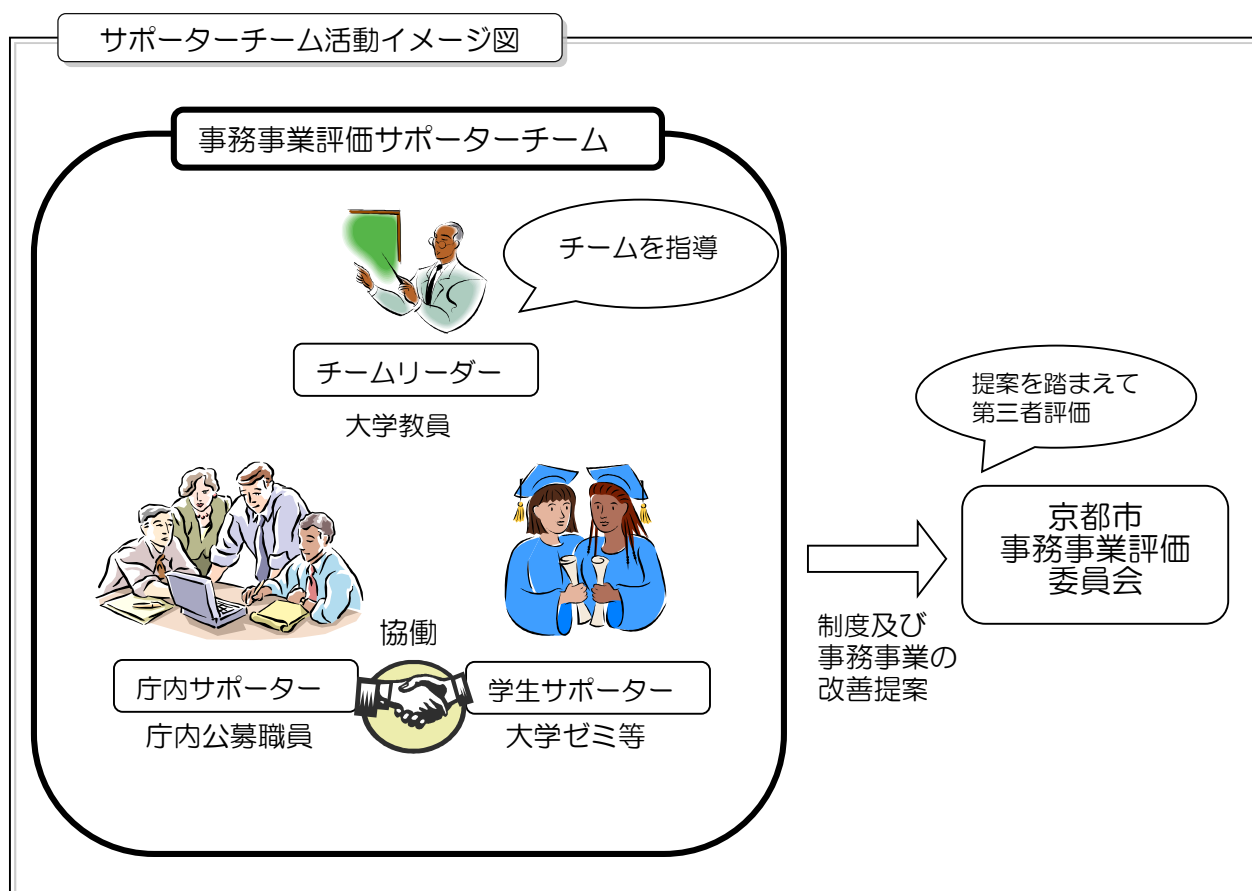


1 事務事業評価サポーター制度とは

◎ サポーター制度が目指すもの

本市では、平成15年度から、本市が実施する事務事業を対象に事務事業評価制度（以下「評価制度」という。）を本格導入し、仕組みとしては全国的にも先進性の高さを評価いただいておりますが、事業の分野によっては事業の有効性や効率性を図るための指標を見出せない、事業成果を数値で把握することが困難であるなど、評価制度を十分に活用できていないものもあります。また、事務事業に関する客観的なデータや数値目標等を記載した事務事業評価票（以下「評価票」という。）はすべて公表していますが、記載内容が難解で市民に対して分かりにくい部分があるなど、評価制度の運用面での改善が今後の課題となっています。

このため、大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援するサポーター制度を平成17年度から実施し、学識経験者など外部の委員で構成する京都市の評価制度の第三者評価機関である京都市事務事業評価委員会の補助機関として活動していただいております。



◎評価制度とは

近年、社会情勢の変化、市民の価値観の多様化等により市民のニーズが拡大する一方で、右肩上がりの経済成長が終えんを迎え、地方自治体は厳しい財政運営を強いられています。

限られた行政資源を有効に活用し、高品質で満足度の高いサービスを安定的に提供していくために、行政の取組の成果を把握、評価し、次に生かす行政評価の手法が登場し、成果指向の行政運営のツールとして近年多くの自治体で取り入れられています。

京都市の行政評価は政策・施策を対象にした「政策評価制度」と、施策目的の実現手段である事務事業を対象にした「事務事業評価制度」により構成されています。このうち事務事業評価制度は、個々の事務事業の妥当性、有効性、効率性などを、事務事業を行う所属が自己評価し、より効果的で効率的な事務事業への再構築を目指すものです。



<評価制度の実施結果>

事務事業評価実施年度	事務事業評価対象事業数 (注1)	今後の方向性					終了 (注2)	見直しによる 財政効果額
		充実 事業数	継続 事業数	見直し 事業数	効率化等による見直し	縮小等による見直し		
15年度	1,308 (100.0%)	150 (11.5%)	728 (55.6%)	430 (32.9%)	303 (23.2%)	127 (9.7%)	—	約102億円
16年度	1,285 (100.0%)	156 (12.1%)	777 (60.5%)	352 (27.4%)	281 (21.9%)	71 (5.5%)	—	約56億円
17年度	1,296 (100.0%)	138 (10.6%)	825 (63.7%)	333 (25.7%)	278 (21.5%)	55 (4.2%)	—	約43億円
18年度	1,301 (100.0%)	141 (10.8%)	862 (66.3%)	298 (22.9%)	234 (18.0%)	64 (4.9%)	—	約43億円
19年度	1,348 (100.0%)	148 (11.0%)	891 (66.1%)	270 (20.0%)	225 (16.7%)	45 (3.3%)	39 (2.9%)	約32億円
20年度	1,370 (100.0%)	98 (7.2%)	859 (62.7%)	358 (26.1%)	296 (21.6%)	62 (4.5%)	55 (4.0%)	約56億円
21年度	1,384 (100.0%)	127 (9.2%)	901 (65.1%)	302 (21.8%)	254 (18.3%)	48 (3.5%)	54 (3.9%)	約40億円
22年度	1,345 (100.0%)	159 (11.9%)	925 (68.8%)	207 (15.4%)	156 (11.6%)	51 (3.8%)	54 (4.0%)	約24億円
23年度	1,345 (100.0%)	150 (11.2%)	949 (70.6%)	177 (13.2%)	152 (11.3%)	25 (1.9%)	69 (5.1%)	約24億円
24年度	937 (100.0%)	117 (12.5%)	629 (67.1%)	173 (18.5%)	143 (15.3%)	30 (3.2%)	18 (1.9%)	約23億円
25年度	930 (100.0%)	125 (13.4%)	600 (64.5%)	193 (20.8%)	165 (17.8%)	28 (3.0%)	12 (1.3%)	約25億円
合計								約468億円

(注1) 前年度をもって終了又は廃止した事務事業を除く。

(注2) 平成19年度から「終了」の区分を新たに追加

(参照) 事務事業評価制度ホームページ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu5/category/69-26-0-0-0-0-0-0.html>

◎京都市事務事業評価委員会とは

事務事業評価は事務事業担当課の自己評価により実施されます。この評価の客観性、透明性を確保するため、京都市では評価委員会を設置し、第三者の立場から評価を行っていただくほか、事務事業評価の手法等についても助言をいただいています。

事務事業担当課は評価委員会による第三者評価を踏まえ、最終的な評価を行います。

【京都市事務事業評価委員会】（平成26年4月1日現在）【敬称略】

北村 巨 委 員 長（大阪大学大学院法学研究科教授）

中井 歩 副委員長（京都産業大学法学部准教授）

清水 智子 委 員（有限会社キャップス代表取締役）

中川 美雪 委 員（あずさ監査法人 公認会計士）

越智 温子 委 員（NPO法人遊悠舎京すずめ理事）

<事務事業評価委員会の実施状況>

○京都市事務事業評価委員会

<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu5/category/69-26-3-0-0-0-0-0-0.html>

2 平成25年度サポーターチームの活動状況

(1) サポーターチームの編成

平成25年度は、同志社大学政策学部 関根 千佳 教授，龍谷大学経営学部 松永 敬子 准教授をチームリーダーとする2つのサポーターチームが、「子育て支援」及び「障害者福祉」の2分野を対象※として、平成25年7月から活動を開始しました。

※ サポーターの活動範囲は、「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン（京都市基本計画）」における27政策を分割し、5年で一巡するように設定しています。

平成25年度事務事業評価サポーターチームメンバー

(Aチーム)	チームリーダー	同志社大学 政策学部 関根 千佳（せきね ちか）教授
	学生サポーター	15名
	庁内サポーター	6名
(Bチーム)	チームリーダー	龍谷大学 経営学部 松永 敬子（まつなが けいこ）准教授
	学生サポーター	7名
	庁内サポーター	2名

(2) 活動の概要

◎ 活動の経過

7月 第1回会議の開催

事務事業評価サポーターの委嘱状を交付しました。
そして、事務事業評価サポーター制度及び事務事業評価制度について説明を受けるとともに、事務事業評価について、グループ討論及び発表を行いました。

9月～11月 第2～4回会議の開催

活動対象となる個々の事務事業の内容について、所管課の職員から説明を受けるとともに、目標達成度評価の指標や評価票の記載内容の見直しなどについてグループで点検し、発表を行いました。

11月～12月 個別調査、報告資料の作成

評価委員会で報告する事務事業を選定し、事務事業ごとに担当者を決めました。各担当者は、これまでの点検結果を検証するとともに、現地調査や他都市のホームページからの情報収集などを行い、評価票の各指標を含む記載内容及び事業の実施内容についての改善案を検討して、報告内容をまとめました。

12月上旬 第5回会議の開催

評価委員会で報告する事務事業について、チーム内でプレゼンテーションを行うとともに、発表内容について、改善点や補強案について意見を出し合いました。

その後、各担当者は、事務事業評価委員会まで、報告資料の改善や発表の練習に取り組みました。

12月下旬 京都市事務事業評価委員会で活動報告

事務事業評価票の点検結果や事務事業の改善案などについて、評価委員会に報告しました。

◎ 活動内容

1 評価制度について学ぶ

サポーター活動のスタートに当たって、本市の事務事業評価制度について説明を受け、理解を深めました。

2 活動対象分野の事務事業について学ぶ

活動対象分野所管課の職員から、活動対象分野の概要や個々の事務事業の内容の説明を受け、その理解を深めました。

3 評価票の点検と改善案の検討

活動対象となる個々の事務事業評価票について、以下の二つの視点から点検を行いました。

評価票を点検する二つの視点

① 分かりやすいか？

- 評価票の記載内容は、市民に分かりやすいか
(「事業概要」等は、事業の内容が理解できる記載内容となっているか)

② 「目標達成度評価」の指標が適切か？

- 適正な指標で客観的に評価しているか
(事業の「目的」との関係、事業の成果を示す指標となっているか)
- 適切な目標値が設定されているか

点検の対象となった個々の事務事業評価票について、各サポーターが目標達成度評価指標の改善案などを検討しました。

4 事業内容についての提案

現地調査や、他都市の実施状況等の調査を行い、事業の目的達成に向けた事業内容の提案や改善案について検討しました。

5 点検結果のまとめと報告資料の作成

目標達成度評価指標の改善案や事業の目的達成に向けた事業内容の提案など、点検の対象となったそれぞれの事業についての意見や提案を取りまとめ、評価委員会への報告資料を作成しました。

3 評価委員会への活動成果の報告

12月に開催した平成25年度第2回京都市事務事業評価委員会において、「児童の健全育成及び放課後留守家庭児童対策」、「福祉乗車証交付事業」など5つの事務事業について、それぞれの事務事業における目標達成度の評価指標や事務事業に対する改善案について、報告を行いました。

【平成25年度第2回事務事業評価委員会の様子】



※ 活動報告及び事務事業評価委員会の内容については、以下のホームページを参照ください。

○平成25年度第2回京都市事務事業評価委員会について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000162589.html>

4 その他

11月に公開で開催された平成25年度第1回事務事業評価委員会において、各サポーターチームからそれぞれ1～2名のサポーターが、評価者として参加しました。

※ 第1回事務事業評価委員会の詳細については、以下のホームページを御参照ください。

○平成25年度第1回京都市事務事業評価委員会の審議結果について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000159345.html>

○平成25年度第1回京都市事務事業評価委員会における指摘事項に対する見解等

<http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000162354.html>

5 サポーター活動を終えて

平成25年度に活動いただいたチームリーダー及び学生サポーターから、今回のサポーター活動について、以下の感想をいただきました。

○各チームリーダーの感想

「京都市事務事業評価を終えて」

同志社大学 チームリーダー 関根 千佳 教授

われわれ市民が生活をしていく上で、行政の施策とはその日々の生活を支える土台のようなものである。目には見えていない部分もたくさんあるが、それは行政職員のさまざまな苦勞の上に成り立っている。

今回、事務事業評価に参加させて頂き、実際のその土台部分を垣間見ることのできる貴重な機会を頂けたと思う。このような部分にもきちんと予算を建てて、こういった事業を行っているのかと、瞠目するようなものもたくさんあった。また評価の仕方そのものに対しても、項目の立て方や指数の在り方について、考えさせられることが多かった。今回は、指標そのものが存在していないという事例もあり、納税者に対する説明責任としての施策の在り方を考えさせられた。また、たとえ少額の予算であっても、その施設にとっては不可欠な場合もあるはずだという認識も、訪問等によって得ることができた。福祉に関する予算は聖域ではない。だが、選択と集中を行うためにも、情報公開と共有の仕組みの在り方を考えなおす時であると思う。

今回は学生との話し合いでさまざまな提言をさせて頂いたが、実際に市民の立場でこの評価票を眺めれば、情報提示の仕方など、まだまだユニバーサルデザインに配慮すべき点もある。今後、行政施策そのものが「新たな公共」によって作られ、運営されていく時代になることを考えれば、制度設計そのものについても、再考の余地があると思われる。

今回、学部の一回生から社会人の大学院生まで、多様な年代での参加が可能であったことは、各人にとって大きな収穫であった。学生たちには、この貴重な機会を、一生の宝として、これからの「市民」としての人生を歩んで行ってほしい。ご尽力いただいた京都市役所の三浦さま、松崎さまには、どれほど言葉を尽くしても、この深い感謝の意を表すことはできないくらいである。本当にありがとうございました。

「現状を知ることの大切さ」

龍谷大学 チームリーダー 松永 敬子 准教授

今回の制度への参画を通じて、「事件は会議室で起きてるんじゃない、現場で起きてるんだ！」という名言を生み出したドラマのワンシーンを改めて思い出しました。少々古いフレーズで、今回の取組みとは少し異なるかもしれませんが、今回の事務事業評価サポーター制度では、まさに「事業は現場で実施しているのだ！」「事業は京都市民のために実施しているのだ！」という大前提が、いかに重要であるかということを学生サポーターのみならず、チームリーダーである指導教員も改めて体感することができました。事業の有効性や効率性を図るための指標や成果を把握し、評価することは重要であるが、やはり、現場を知らずして、また市民の現状を知らずして、会議室で議論を展開するには限界があります。その中で、京都市の事業担当者、第三者機関である事務事業評価委員会委員、そして、補助機関である本制度の庁内サポーター、学生サポーター、大学教員であるチームリーダーが協力し、少しでも現場や市民の現状に即した事務事業への再構築をめざすというこの仕組みは、非常に意義のあるものだと思います。

今回は、自主的に参画を希望した6名のゼミ生でチームを編成しましたが、大学での講義などの学びを学生が社会でどう活かしていくのか？そのために教員として何をしなければならぬのか？など改めて考え直す良い機会を頂いたことに心より感謝を申し上げます。最後に、この制度と京都市の各事業のさらなる発展を願います。

「京都市事務事業評価を体験して」

同志社大学 長倉 寛明

今回、大学生という立場から行政の事業評価というものに関わらせていただき、誠にありがとうございました。

行政の仕事を何も体験したことないのに、私なんかに参加して何の役に立てるのだろうかというのが、最初の正直な感想です。しかし、何度か参加し、職員の方にお話を聞き、自分の意見を述べて、ディスカッションしていくうちに、何も知らない私たちだからこそ、市の行政に触れることのできる機会に、積極的に参加しなければいけないんだということに気づかされました。

私たちは、普段、大学で授業を受け、知識をたくさん身につけることはできますが、実際、その知識を活かす場所は少ないです。しかし、今回の事務事業評価に関わらせていただくことで、授業で学んだことが実際の社会でどのくらい実用化されていて、どの部分をどう変えればいいのか、変えようとしたときにはどんな問題に直面するのか、深く考え、自ら主体的に学ぶことができました。

今後も、なるべく、社会と関われるような体験を、大学生のうちからしっかり積んでいきたいと思います。

「貴重な経験」

同志社大学 平 涼

僕がこの事務事業評価に参加したのは、友人に誘われたのがきっかけでした。活動が始まる前は何をしたらいいのかも全く分からないまま、本当に大丈夫なのかという不安だけがありました。

実際に活動が始まり、最初に驚いたことは、こんなにも莫大な数の事業が行われているのかということでした。しかも僕たちが普段聞いたことのないような事業名ばかりでした。また、指標の見方など本当によくわからないようなことが多かったです。しかし、こういった経験も、日々何気なく大学生活を送っている中では経験できなかったような、素晴らしい経験であったと今振り返ってみると思います。

指標は、初めこそ理解に苦しみましたが、担当者の方がわかりやすく説明してくださったおかげで、徐々に理解することが出来ました。また、サポーター会議では、京都市の職員の方とお話しさせていただく機会が多く、これも普段では経験できないような貴重な経験でした。

最後になりましたが、僕たちの活動を支えて下さった職員の方々、評価委員の先生方ほか、多くの方々にはお世話になりました。本当にありがとうございました。

「事務事業評価サポーターの感想」

同志社大学 坂口 紗姫

私は事務事業評価の具体的なイメージがつかないまま、ただ興味があったので参加を決めました。事務事業評価サポーターとしての活動を重ねていき、難しいと思い込んでいた事務事業評価がとてもおもしろいと感じました。実際に職員の方々と話し合ったり、事業そのものを知ることで、行政が近い存在に変わっていききました。提言を考える際には、補助事業の対象となっている施設へヒアリングに行ったり、グループで議論を交わしたりと新たな視点や気づきを多く得ることができました。この事務事業評価サポーターで学んだことはこれからも活かせることばかりで、参加して本当によかったと感じています。私たちの事務事業評価サポーターとしての活動が京都市の事業に役立てることになればうれしいです。多大なるご迷惑を多くおかけしましたが、私たちを支えて下さった職員の方々、評価委員の先生方、本当にありがとうございました。

「行政の仕事にふれる」

同志社大学 山口 恵子

私が参加したのは、卒業を目前にし、やり残した事を沢山感じていたからである。大学の授業で、行政の方と一緒にいる場では、協働について話し合った。参加することで、更に協働という意味を、深めたいと思った。当初は、指摘を探す感覚でやっていた。しかし、庁内サポーターのアドバイスを聞くうちに、「指摘を探すだけでなく、お互い皆でより良いものにする為にやっているんだ。」という気持ちに変化した。最後の事務事業評価委員会の委員の方の言葉に、「当たり前が当たり前ではなく、一つ一つの事業を、行政の方は作っておられる。」と言われた。今迄のサポーター会議の気づきがあったからこそ、改めてその言葉を実感することが出来た。貴重な体験を有り難う御座いました。

「知る、考える、一市民として発信する」

同志社大学 高尾 優

北村委員長の言葉、「事務事業評価は事業仕分けのように速攻性はないが漢方のようなものである」という言葉が印象的です。

今回の事務事業評価を通して、普段我々の目にしない、または気に止めていない行政の仕事の数々を垣間見ることができました。一見では、把握することのできない事業の数の多さ。また、評価表という書類だけでは見えてこない現場の様子。それだけ、行政の持つ仕事の幅広さを再認識しました。実際に、関わってみないと意識しない事業ばかりであったと思います。

大切なことは、市民である我々がこういった事業に興味・関心を持つことだと思います。京都市役所の職員の方、庁内サポーターの方、ご担当の方のお時間を頂きながら聞けるような、こんな貴重な機会は滅多にありません。

今後この活動を通じて知ったこと、関心をもったことを、逆に発信する側に立つことがこの活動を通じて得た市民としての私たちの役割だと感じました。

○龍谷大学 松永敬子チームの学生サポーターの感想

「考えぬき、伝える」

龍谷大学 澤 奈央実

京都市事務事業評価サポーターとして実際に京都市で行われている事業について評価・提案をさせて頂くということで、学生ながら限りなく実践的で貴重な経験をさせて頂きました。単なる自分たちの思いや意見だけではなく、社会状況やデータにも目を向けた上で考えぬくという力を養うことができたと感じています。その上で、自分たちの考えをどう相手に伝えるのかはもちろん、活動中の評価委員の先生方や庁内サポーターの方、他大学の学生との交流はとても刺激となり、学ばせて頂くことが多くありました。考えが深まれば深まるほど立ち止まりもしましたが、事業あるいは京都市に少しでも貢献したい、という思いで取り組むことができました。このような経験を最後までやり遂げることができたことをとても嬉しく思います。

最後に、私たち学生サポーターの活動を支えて頂きご指導下さった職員の方々、評価委員の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

「言うは易く、行うは難し。」

龍谷大学 川崎 貴大

今回、サポーターとして参加させていただき、一番印象に残ったことは「地方自治体はこんなに多くの事業を行っているのか。」ということです。普段は住民として当たり前のように生活することができていますが、その生活が市の職員さん方の絶え間ない努力によって保障されていることに気付くことができ、その事業に対し学生の視点から話を聞き、調べ、意見をjする経験ができたのでとてもいい勉強になりました。

また、このように第三者の立場から事業に対し意見をすることは簡単なことですが実際にそれを行動に移す現場の立場としてとても難しいことであることにも気付きました。普段、市民として市役所などが何をしているかというのは少し見えにくいですがこの学生サポーター制度を通じて若い世代に、職員の方々の日々の努力がこれからも伝えることができればいいなと思います。

また、この制度は複数の大学の学生が集まるので、他の大学との交流や自分たちとどう違うのかということも感じ取れたので良い経験になりました。

「サポーター活動を通して学んだこと」

龍谷大学 岡田 茉美弥

私にとって事務事業評価は未知の分野でした。市政運営について具体的に学ぶこと自体が初めてでしたし、今まで学生生活を送ってきて、評価される側ではあっても評価する側になることは殆どありませんでした。また、評価委員の方々や市内サポーターの方々と活動を共にさせて頂き、自分の考えでは及ばない視点や価値観に触れることができ、とても参考になりました。

活動報告をするにあたっては、何かを他者に伝えることの難しさを知ったと同時に、意見や提案をする時には、その根拠を明確にしなければならないこと、責任を持たなければならないことを実感しました。

半年間のサポーター活動を通して、たくさんの貴重な経験ができました。この経験を今後活かしていけるよう精進していきます。支えてくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

「評価票という紙 1 枚で伝える難しさ」

龍谷大学 伊藤 考弘

今回、京都市の事務事業評価に参加することで京都市がどんな事業を行っているのかが分かり非常に良い経験になりました。もっとも勉強になったことは一つの事業の内容や指標を一枚の紙に分かりやすくまとめることの難しさです。一つの事業でさまざまな活動や取り組みを行っており、より良い社会作りに向けて取り組んでいる詳細や問題点があることなどを事業の担当者のお話を聞いて初めて分かることが多くあり、評価票の紙 1 枚では理解できないことがたくさんありました。私たち学生サポーターはそんな読み解きにくい 1 枚の評価票をより成果のある指標、より詳細が分かりやすいものにするために何度も考え、とても悩みました。しかし、事業のことを理解していく中で提案も固まって行き自分の成長を感じました。大学の勉強では経験できないことを市役所という社会の現場で経験でき、とても有意義なものとなりました。

最後に今回の活動を経験させて、頂き大変感謝しております。そして、京都市の今後の更なる発展を願っています。

「普段味わうことのできない経験」

龍谷大学 相馬 一範

今回、事務事業評価サポーター活動を通して、普段味わうことのできない貴重な経験をさせていただきました。私は障害者スポーツ振興事業を担当したのですが、事務事業の概要理解、目的に沿った活動内容がなされているか、指標の選択は適切かなどを検討することは全てが初めての経験で、非常に勉強になることばかりでした。また一枚の事務事業評価シートのバックグラウンドには、たくさんの市民の方々が関わっていること、その事業を継続させようとする京都市職員さんの思いなど、一つの事業の重みを知ることができました。その中で市職員さんへの質疑応答を繰り返し、また学生同士で会議を実施し、事務事業評価を行った経験は、将来仕事をしていく中で必ず活かすことができると感じました。

最後に、この活動を通して私たち学生サポーターを支えて下さった全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

「社会人になる上での経験」

龍谷大学 木下 波輝

税金の無駄使いといった言葉をよく耳にします。しかしそれを聞いている私たちは実際にどのようなことが無駄遣いであるのか、解決のためにはどうすればいいのか。そういったことは今まで考えてきませんでした。今回の活動で初めてそれについて考えていく中で無駄とされているものも必要としている人が多くいて、しっかりと考えた中で行われているといったことを感じました。しかし、中には改善が必要なものもありました。その当時は必要であっても現在では必要でなくなったものや事業目的と指標が関連していないものなどです。私は来年から社会人になります。今回この事務事業評価での活動をこれから社会人として働く上での重要な経験として活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の私たちの活動を支えてくださった職員の皆様、評価委員の先生方に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

【サポーター活動の様子】

